

ひたすら乳首を責めながら
俺をイカせまくるSな後輩は好きですか？

●タイトルコール

「ばちばちぼいす」

「ひたすら乳首を責めながら俺をイカせまくるSな後輩は好きですか？」

• ๘๗๔

「ドミな先輩主人公に興味津々なドミ後輩・結愛ちやん」

「先輩のアレな秘密を盾にして、一人はお付き合いする」といふ

「両親不在な結愛ちゃんの家で繰り広げられる一人の世界」

「センパイの敏感乳首をいじめてたら、どうぞ我慢できなくなつて……」

★トラック01. センパイってドMですよね?

●学校の教室（夕・放課後）

「あ、センパイ。来てくれてありがとう」「ざいります。」
ふふ「

「そうです。私がセンパイを呼び出したんですよ？」
大事な話がしたくて……」

「誰もいない放課後の教室に、女の子が男子を呼び出

「…? してるんですから、何の話か、想像つきますよね…」

「ちなみに……センパイって好きな女の子とか、います?」

「え? いないんですかあ~? ふーん……ちょっと意外。…………ですけど……まあ、いいです。それじゃあ、もしも私がセンパイのことを好きって言つたら……どうします?」

「おひへー おやおやおやおやへー……センパイ、頬が
真っ赤になつてますよね? これは……夕陽のせい
じゃないですよねー?」

「これは、もしかしなくても……センパイって私のこと、好き、ですよね？……ちなみに、私は。センパイなら付き合ってあげてもいいですよ？」

「うへ……あつはつはまはま……すつ」へ燒ててゐる
じゃないですか！ 面白いみたいに反応するんですね。もうバレバレですよ。」

「ふふう…………いいですよ？ 付き合ってあげても。私も…………センパイに興味があるんです」

「ん？ 興味ってどういう」とか、ですか？ 興味は興味ですよ。わかりませんか？ じゃあ、ズバリ言いますけどおー……センパイって……」

「（耳元で囁くよつに）……………ダメ、ですよね？」

「どうしてそういう思うのか、ですって？ 見てればわかりますよ。だって、私は……」

「（耳元で囁くように）…………、なんですから」

「……でも、私、痛くするのはあんまり好きじゃないんです。かわいがる系っていうか、ネチネチいじめるのが好きなんですが、特に――」

「（耳元で囁くように）…………センパイみたいな変態さんを責めるのが大好きなんです」

「……あ、今、ちょっと興奮しました？ 私ね、知ってるんです」

「（耳元で囁くように）…………センパイは……乳首を……自分でいじるのが好き、でしょ？」

「だって見ちゃったんですから。センパイが部室でオナニーしてるところ。乳首をいじりながら、私の名前を呼んでましたよねえ……」

「センパイのオナニーってオカズが私なんですか？ しょーじきに言つてください」

「（耳元で囁くように）…………は、や、ぐ。しょーじきに。私を、オカズに、してるんでしょ？」

「ふふふ。……はい、ですって。後輩の私に敬語を使うなんてやつぱりドMですね、センパイは」

結愛

「楽しそう? 私ですか? もちろん楽しいですよ。ヤンパイをいじめる」とができるんですから……」

結愛

「言葉でいじめるだけですから全然物足りませんけれど」

結愛

「んー? オカズにされて気持ち悪くないのか、ですか? 他の男子だったら嫌ですけどお、ヤンパイならゼーんぜん気持ち悪くないですよ。すいぐ嬉しいです。ふふふ?」

結愛

「だから、ヤンパイとお付き合えるのならひとつでも嬉しいんですけど、どーですか? 彼女にしてくれるのなら、じゅっぽいかわいがってあげますよ。」

結愛

「(耳元で囁くように) ……ヤンパイの性感帯の乳首も。……もちろん男の子の……かたあい棒も同時にシロシロしてあげますよ。」

結愛

「あははっ。そんな必死な感じで頭下げて、お願ひしますなんて……かわいい! 先輩なのにかわいいなんてずるじですよ」

結愛

「じゃあ、これからウチに来ませんか? 今日は両親いないんです。ヤンパイの想像通りのことが起っこちやうかもですよ? ……ふふふ?」

「どうします？ ん？ どうして迷うんですか？ 何か用事でもあるんですか？ ない？ それなら迷うことないじゃないですかー」

「もしかして、まだ照れがあるんですか？ 私をオカズにしながら乳首をいじってオナニーしてくるくせに。今更何を恥ずかしがる」とがあるんですか？」

「そりそり。素直に頷いておけばいいんです、センpaiは。じゃあ、行きましょ」「よ

★トラック02 センpaiの乳首弄りますね。

結愛

●結愛の家・結愛の部屋（タ）
「どうですか、私の部屋は？ ……緊張する？ ……いい匂いがする？ んふふー、嬉しいこといつくれますねえー」

結愛

「それじゃあセンpai。早速ですけど、ドミなセンpaiのち、く、び。触つてあげますね……」

結愛

「（耳元で囁くように）…………ふふ…………ほら、センpaiわかりますか？ 制服のシャツの上からコリコリコリ……」

結愛

「（耳元で囁くように）…………ああ、このグミみたいな感触の膨らみ…………センpaiの乳首だあ…………コリ…………コリ…………」

結愛

「((耳元で囁くように)…………さやつて摘まんやり…………
ひつぱつたり…………それでえ…………またコリコリする
の…………コリ…………コリつて…………」

結愛

「ふふふつ。もう勃起しちゃつてますよね? 敏感で
すねえ。直に触つたひどくなつちやうんですか?
直接触つて欲しいですか?」

結愛

「じゃあ、」のまま……私が制服を脱がせてあげます
ね。まずはボタンから……(興奮している様子で)
んつ……はあ……ああ……」

結愛

「Tシャツも脱いで……ああ、センパイの乳首が出て
きましたよ。かわいいなー……。センパイのオナ
ニーを見て以来、私がいじつてあげたいなつて思つ
てたんですよ?」

結愛

「うん、センパイは素直ですね~。それじゃあ、次に
……ズボンを脱ぎましようか……」

結愛

「ベルトを外して、チャックを下ろししてーーふふ
ふつ。出てきましたね、センパイの……。ほとんど
垂直にじきり立つてるじゃないですか。すいおー
い」

結愛

「こんなに立派なモノ、ネットでも見たことないです
よ。ん? 私ですか? 本物を見るのは初めてです
よ。」「ううう」とするのも初めてですし」

「そしたらセンパイがオナニーしてるじゃないですか。私の名前を呼びながら自分で乳首をいじって、硬くなつた棒をシロシロつて……」

「そんなの見ちやつたら絶対乳首責めしてあげよつて思つじやないですかあ……違いますか？」

「ふふっ。何も言わなくてもわかりますよ。もうホント、センパイ自身がかわいいんですから……。じゃあ、直接触りますよ、センパイの乳首……」

「（ゆうべつし） ハツ…ハツ…ハツ…。ハツで
すか？ 直接触られるの？ そうですか。気持
ちいいんですね？ ふふふ…」

「なら、いつまでキョツて摘まむのは?」(ゆく)

「なあ、」「うやつでキュッて摘まむの?」(ゆづく
ラヒ) キュッ……キュッ……キュッ……キュッ……
…。摘まんだり、緩めたり……」

「ハヤシで摘まんだまよ、キュー……つて引っ張つたりい……。もう一度……キュー……そして、またハリ……ハリ……ハリ……」

「もかひよ、」つやつやく喋つてゐる間もすつと乳首をいじつてあがますからね……「つ……つ……つ……キュ～……キュ～……」

「どの触り方も気持ちいいですか？ まあ、聞くまでもないですよね。乳首を刺激するたびにセンパイはピクピクって震えてるんですから……」

「特に足が震えますね。生まれたての子鹿みたい……ん？ もしかして立っていられないんですか？ 乳首を触られてるだけで？」

「……ですか……立つていられないんですね。でも、そんな」と聞いたら、もっと虐めたくなっちゃうじゃないですかあ……」

「……ふふふつ……「つ……「つ……反対側の乳首も同時にじじってあげますね……「つ……「つ……「リ……」

「「つ……「つ……んつ……またキューつて引っ張つてえ……「つ……「つ……「つ……「つ……はああああ……「つ……「つ……」

「二つの乳首をじられて、ずっと震えてるじゃないですか、センパイ。私が想像してたよりもずっと敏感で嬉しいです……ふふふつ……」

「「つ……「つ……「つ……キュー……「つ……「つ……はあ……「つ……「つ……んつ……「つ……「つ……」

「足がガニ股になつてきましたね、センパイの性器……全然触つてないんですよ?」

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

……なのに涎が出るくらい感じてるんですか？ 口元から垂れますよ？ ああ、拭いてしちゃ駄目です！」

「(耳元で囁くように)…………センパイのだらしない顔
もちゃんと見せて…………コリ…………コリ…………キ

「（耳元で囁くよつこ）…………キュー…………キュー…………」
「…………口コニキュー…………キュー…………はあ…………摘ま
まれるのも好きなんですね、センパイは…………」

「（耳元で囁くように）…………ひでいうか、乳首をいじ
られるのなら何でもよかねえですね。ふふふ…………
もつといろいろしちゃおひつと…………」

「（耳元で囁くよつて）……………」
「……………はあ……………」
「……………」

結愛

「（耳元で囁くように）…………はあ。乳首で感じてるセ
ンパイを見て私が興奮しちゃいますよお…………んつ
…………はあ…………んんつ…………はああああああ

結愛

結愛

(耳元で囁くように) 「…………何ですか、センパイ?
もう立てない? それくらい感じてる…………と?
…………ふふふつ…………ましまさいじめたくなつちゃうじや
ないですか~」

「（耳元で囁くように）…………「リ…………「リ…………「リ…………
…………ほとんど無いちゃつてるじゃないですか、センパイ
…………」「リ…………」「リ…………」「リ…………」「リ…………」

「（耳元で囁くように）……ふふふつ……足ががくがくしてますね……我慢しないで……感じてるところ、もつと見せて下さい……」

「え？ 無理？ どうしてですか？」「まだして、何を恥ずかしがる」とがあるんですねー？」

「えっ！？ もうイキそう！？ でも、私、センパイのモノ、触ってないですよ？」
「え？」
「両方の乳首をいじり続けてるだけですよ？」

結愛

「なのにイキなんですか？ ふうんつ……センパイ
イつて乳首だけでイケるんだあ……自分でも知らな
かった？ ジャあ、私が開発しちゃつたんですか
ね？」

結愛

「ふふふつ。嬉しい。じゃあ、センパイ。」のまま乳首をいじつてあげますから好きなときにイッて下さいね。ちゃんと射精する瞬間、私が見てあげますから

結愛

「あつ、あつ、あつ……。センペイ、すうじい歸いで
ます、かわいい。あつ、あつ、あつ……。まひ、
もっと聞かせて下さい。あつ、あつ、あつ……。」

「わっ、センパイのうめき声が大きくなつた……！
もう出ます？ ジヤあ、出して下さい、ほら、」の
まま乳首をキュンって摘まんあげますから……！
……」

「びゅーって遠くまで射精すると」見せて下せば……
……あつ、あつ、あつ……あつ、あつ、あつ……
……キウウウュ～……

「ひやあつ…………出た！ 精液、出ました…………
遠くまで飛んでる…………凄い………… ああつ…………
射精してるセンパイの乳首、引っ張つてあげます…………
！」

「ふふ……もう射精は終わっていますよ。なのに乳首コリコリするたびに、センパイのがぴくぴくって跳ねてるじゃないですか。刺激、強すぎですか?」

結愛

「ショーガないですねえ……一度、手を離しますよ？
はい」

「やだ、センパイ。フラフラしてんじゃないですか。
無理に立とどしなくていいですよ。私のベッドで
寝て下わー」

★トライック03. センパイは私の命令に絶対服従ですよ。

「ああ、下半身のモノをガチガチに勃起させた裸のセ
ンパイが、ベッドに寝転がっているなんてドキドキ
しちゃいますね」

「つていうか、射精したのにギンギンのままじゃない
ですか。射精したら小さくなるはずじゃないんです
か？」

「私の乳首責めが凄くて興奮が治まらない？ ふ
ふふ。気に入つてもらえて何よりです。私はまだま
だいじつ足りないですけど……」

「じゃあ、今度は趣向を変えて乳首を触つてあげます
ね。そのままじつとしてて下さいね……。優しく摘
まみますよお……キュッ。……もう一度、キュッ。
緩めて、キュッ……」

「ふふふ……摘まむたびに、背筋がぴんと伸びちゃつ
てるじゃないですか、センパイ。まるで電気で痺れ
てるみたい。そおんなに気持ちいいんですね……」

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

「（耳元で囁くように）…………私の乳首責め。感じてくれて私も嬉しいです……ふふふ……」している時もちゃんとキュッ、キュッ！」

「（耳元で囁くように）…………両方の乳首をキュッ、キュッ……キュッ、キュッ……コリ、コリ……コリ、コリ……」

「（耳元で囁くように）…………「ココココココ……ふふふ。触り方を急に変えたら、ピクン！センパイの身体が跳ねましたね……」

「（耳元で囁くように）…………「ココココココ……コココリコリコリイ……んんっ……はあ……んんっ……」

「（耳元で囁くように）…………ああ、私、とってもコーフンしています……。きっともう濡れていますよ、私の大事なアソコ……」

「（耳元で囁くように）…………見たいですか？……ふふ、慌てなくとも今見せてあげますね……スカートめぐりますよ……」

「ほら。パンツ、濡れてるでしょう？…………え？もつと近くで見たい？ いいですよ？」

「んっ……それじゃあセンパイの顔に失礼しちゃいまーす」

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

「ああ……センパイの息が股間に当たっています……んっ……はあ……」れ、顔面騎乗って言つんですよね？ はあ……」

「……知つてますか？ 顔面騎乗。……ふふつ。知つてるんですね。さすがエッチな」とに詳しいですね……ああ……」

「あんつ。動いちやダメですつてばあ……。いいですか、センパイ？ 今からセンパイは私に虐められるんです。でも……だからって手錠したり、縛ったりはしません」

「ただ、私が『動くな』って命令しますからあ……。センパイは私の命令に絶対服従ですよ？ それじゃあ、センパイ……『動くな！』」

「そう。それです。じつとしててくださいね……」

「コリ……コリ……コリコリコリ……。コリ……コリ……コリコリコリ……」

「どうやって触つてるのか、ですか？ センパイからは見えませんよね。教えてあげます」

「うううううう、一つの乳首を、緩急つけて指で転がしててるんです。コリ……コリ……コリコリコリ……って」

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

結愛

「続けますねーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」
「でも、イレギュラーな刺激があった方がいいで
しょーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」
「ふふふふふふ。Hビミたに背中を抜け反らせるヤンペ
イ、かわいいーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」
「あああ……熱い息がパンツ越しに、敏感なところへ
当たつてますけど……」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」「うーーー」

「私のパンツを……センパイの顔にもつと押しつけ
ちゃいますう……んんつ……せつ、あ……んくつ
……」「……」

「これ、私も……気持ち、いい……ぐりぐりつて押し
つけると……割れ目にセンパイの鼻が擦れる……
はあ……ああ……」「……」

「どんどんパンツが濡れちゃうううう……センパイ、
息、できますかあ？ それとも息苦しいですかあ？
苦しめるのが私の目的じゃないですかあ……」「
動くなとは言いましたけど、しゃべつてもいいです
よ？」「……」

「……………でも、すいせん？」

「あはははっ。センパイってホント、Mですね。でも、そーゆーとー、ホント好き……はあ……あああ……私もすっごく興奮してるからあ……もっ♪パンツ、濡れちゃいます……」

「んんっ……でも……そろそろ……パンツじゃなくて……女の子の大事なアソコで直接、顔面騎乗されたくないですか？ そして、そのまま乳首、責められたくないですかあ？」

「それに、頷きたくても頷けないですよね？ 私が乗ってるんですから……。あ、それとも……『動くな』って命令を律儀に守ってくれたんですか？」

「そりだとしたらほんとドMですねえ。じゃあ、

[...] 2000-01-01 00:00:00 2000-01-01 00:00:00

「立ち上がりがつて何をするのか、ですって？ もちろんパンツを脱ぐんです。アソコが直に当たる顔面騎乗ですよ。嬉しいでしょ？ 違いますか、センパイ？」

結愛

「ふふふ。ちょっとだけ首を縦に振りましたね。『動くな』って言つたのに。許してあげたいのですが、命令を破つたからにはあ……」

「い、いっぱい、虧めてあげますね……。あれ? 「これ
じゃあ、「」豪美になっちゃうかな? まいつか
じゃあ、パンツを脱ぎまーす…………んつ…………」

「……はい。脱ぎました。見えますか？……ああ、センパイが夢中で私のエツチな穴を見てます。どうですか？」

「はつきり見えます？ じゃあ、今度はセンパイの顔に乗りますよー……」

「あつー クリトリスに直接センパイの口があたつて
…………？ んんつ…………！」

「コラ！ 先輩……動いちやダメなんですからね……
吸つたり舐めたりしちゃダメですよぉ……。代わり
に、このまま触つてあげますから。センパイの乳首
……」

結愛

「ふふっ……ただ、乳首を弄つてゐるだけだと面白くないのぢ、今度は「うううのせううぢょう? ……」「うやつて……乳輪のせわりをなでるんぢす……」

結愛

「ふふっ。センパイがぴくつ……ぴくつ……って震えてますね。焦らされてる感じがして気持ちいいんじゃないですか……?」

結愛

「でも、まだ触つてあげませーん! 乳輪の周りに指を這わせて……乳首に触れるか触れないかの距離ではあるけどかしいですか? 苦しいですか?」

結愛

「でも、「うやつて焦らされたあとは、きっと気持ちいいですよ? だから、耐えて下さじね……ふふふ……」

結愛

「ああ……センパイの乳首の周りを十周くらいいしましたよ……やるやる、触つてあげましようか? あんまり。お股の下で、頷かないで下さじよお……」

結愛

「動くなつて命令してゐるの? ……まあ、でも動いちゃうのは、乳首を触つて欲しくてたまらなくなつているからですよね……」

結愛

「じゃあ、触りますよお……。キュシ……って摘まんで……ハラハラハラ…… ハラハラハラ……」

結愛

「ふふふう。センパイの硬くて卑猥な棒が、ピクピクって動いてますよお？ 不思議で面白いですねえ。ふふふう。もつとかわいがってあげます…」

結愛

「……押して、指で転がして……きゅって摘まんで引っ張って……ぱっと離したら、またコリコリ…コリコリ…」

結愛

「ああんう……乳首を刺激するたびに背中を仰け反らせるなんてえ……乳首で感じまくりじゃないですかあ……くンタイですねえ……でも、かわいい…」

結愛

「コリコリコリ……コリ……コリコリコリ……コリ…コリ…コリ…コリコリコリ、コリコリコリ、コリコリコリ…コリ…」

結愛

「あ、あ、あ、あ、ってセンパイがアソボの下で喘いで、そのせいで私も気持ちいいです……なんだか焦らされてるみたいい…」

結愛

「コリコリコリ……コリコリコリ……コリコリコリコリコリ、コリコリコリコリコリコリ、コリイ…

…んう、はああああああ…」

結愛

「センパイの喘ぎ声に合わせて、私も喘いあげますね……ま、ひ、コリコリコリ…あ、あ、あ、コリコリコリ…あ、あ、あ…」

結愛

「ハラハラハラ……あ、あ、あああ……ハリ
ハラハラハラハラハラハラハラハラハラ
あ、あ、あ、あ……はあああ……」

結愛

「センパイ……さつきから私の大事なトロロ……舐め
てるでしょお……動くなつて言ったのに……もお
お……ガマンできなかつたんですかあ？」

結愛

「まあいじすけどね……じゃあ、首から上だけ動い
ていいですよ……うへ……ちよ、あ、そん
な、急に激しく舐めるなんて……」

結愛

「やだあ……センパイ、舐めるの上手……
……しつかりクリちゃんを転がしながら、穴の方
まで舐めるの、気持ちいい……」

結愛

「私、センパイに舐められるの、好きかもつ
あああ……本当に上手うう、ああああ
……」

結愛

「ひやつ、内側の肉をはむはむするなんじつ
ど？」どそんナテクニシクを……ふえ……
ネット……？」

結愛

「彼女もいないのに、ネットでアソコの舐め方なんて
調べて……んつ……もう、センパイって、
そーゆーと」もかわいいんですかからあ……」

結愛

「でも、」れ以上舐めると、私のHツチなお汁、いつぱい出しちゃ、センパイ、窒息しちゃいますよ……」

「ああああつ、せつかく注意してあげたのに、べちょ
べちょに舐めて、私の話を全然聞いてないんですか
らあ……！」

「あああんっ… お股の下で急に躊躇ないドトセ… よお… 今、感じて敏感なんですからあ…」

「何が言いたいんですかあ……！？」美味しい？　あ
あ、私の卑猥なトコロが美味しいんですかあ？
さつきからセンパイ、私のエツチなお汁、飲みま
くつてますよねつ、んつ、あつ……！」「

結愛

「ああっ、気持ちいいっ……！ クリトリスも女の子の穴も、センパイが丁寧に舐めてくれるから、私は気持ちいいですっ、んんんっ……！」

「ハハハハハリハリハリ……あつ、あつ、あつ……ハリハリハリハリハリ……！ ああつ…… センペイ、私、もう……もうイッちゃいますよお……！」

「ああんっ！ 瞬くだけで下をいつて言つてゐるの
にいつー エツー？ またイキやうなんですか、セ
ンパイー？」

「もお、亀頭だつて、カリ首だつて全然触つてないのに、一回も射精するなんて本当にヘンタイなんですからあ…………！ んんんつ、あつ…………！」

「じゃあ、私が、イクのと同時に、乳首を、絞つてあげますからねっ！ ああああ…………！」

「も、もう私、イクから、センパイもイッて……！
精液、いっぱい射精して……！」

「あー、あー、あー……ほー、あー、あー、あー
…………ふふつ……ヤンパイつい、こんな感じで罪
いであるんですよ……」

結愛

「あつ、あつ、あつ……！ あつ、うんつ！ 気持ちいい…… あつ、あつ、あつ……！ あつ、あつ、ああああああ……！ もうダメ、私がもうつ……」

「やつ、イクつ、イクイクつ……顔面騎乗してんセン
パイに舐められで、イッちやハハハハハハハハハハ
うううううううううううううううううううううううううう
」

「あつ、あああつ、あぐい、うあつ、ああああ……
センパイも射精してゐつ……！ほらつ！出し
きつちゃえ！ キュウウウつてしてあげる……か
「らつー」

「…………あつ…………ああつ…………嘘つ…………！？ イキながら、舐めてるなんて…………ちよ、ちよつとまつて…………私もイツつてます…………！」

結愛

「（息切れしながら）…………はあつ…………はあ…………はあ…………もう…………私の顔まで精液が飛んできましたよ、ほんと…………す”い…………はあつ、はあつ…………！」

「乳首触られて、あんあん喘ぐドMなセンパイにイカされちゃつたああ……センパイ、なかなかやりますね……んんっ……」

結愛

「しかも、顔に精液かけられちゃいましたよ……じゅるつ……ちゅつ、ちゅぱつ……んつ……変な味い……はあ……でも、嫌いじゃないかもお……ああ……」

結愛

「でもお……まだまだ、「んなと」「りで終わらないんですからあ……はあ……私を「んなに興奮させておいて、もう終わりなんて……」

結愛

「……つて、センパイ……2回も射精しているのに全然元気ですね……あはつ。センパイの性欲って底無しなんですかあ？」

★アラシク04.センパイに「」褒美あげます。

結愛

「ああつ……センパイの顔が……私のエッチなお汁だらけになつてますう……んふふふつ……情けないお顔お……でもそんなセンパイも可愛い。だからあ……」

結愛

「((耳元でわざわざくよつに))……」褒美にいきス……してあげます」

結愛

「んちゅつ……れろつ、ちゅつ……んんつ……ちゅつ、れろつ……んぶつ、んちゅつ。はあ……私も……私のエッチなお汁を舐めちゃいましたあ……」

結愛

「私達、恋人になつたわけですし……キスくらいしなきや……もちろんセックスも……。でも、それはもう少し、お・あ・ず・け……です。私、もっとセンパイの乳首を虐めたいです……」

結愛

「そんな切なそうな顔をしないでください。私はセンパイの感じてる顔……もつと見たいんですから……ふふふ……」

結愛

「（耳元で囁くように）それに……センパイももつと乳首、触って欲しいでしょ？ ほら？ センパイのモノは正直ですからねえ……」

結愛

「センパイが頷かなくともお、かたあい棒が……ビクンッビクンッ……って、必死に頷いてますよ。かわいいい……」

結愛

「それじゃ、私も気持ちよくしてもらいましたし……まだまだたくさんいじってあげますね……。また、センパイの身体に馬乗りになりますよ……？」

結愛

「んじょいと……今度は顔面騎乗じゃなくて、ちゃんとセンパイの方を向きました。じゃあ……」

「（耳元で囁くように）……今からずつと乳首をいじつてあげます。いじりながら、いっぽいキスしてあげますね……」

結愛

「まずは頬から……んちゅい……ちゅい……ひやつてキスしながら『リコリされるの、どうですか？』」

結愛

「（耳元で囁くように）…………次は、乳首口リ口リチ
ユーしましょ、センパイ……んちゅつ！ ちゅつ！
れろつ！ んふつ、んふつ！ くちゅ、れる！
ちゅぱ、ちゅ…………」

「んわあー、んつ、れひ、くちゅー、んぶつ、ん
んつ……はあ！ ちゅぱ、んつ、れろつー、ん
ちゅつー、んつ、れろ、ちゅー、んぶつ、ちゅ
ぱつ……」

「はあ……！ ふふふつ。キスしながらずつと乳首をいじつてますけど、センパイも敏感になつてきているのか、ずっと背中を仰け反らせてますよね……」

「（耳元で囁くように）…………ピクピク震えててかわいい…………。そんなセンパイが可愛い過ぎて、ゾクゾクしゃいます…………ほら、パリパリパリパリパリ…………」

結愛

「…………」のまま耳を舐めちゃいますねえ…………ちゅう、れろ、ちゅう…………耳との同時責めをしながら………… ハコハコハコ…………れひ、ちゅう、ちゅうぶつ…………

結愛

「れろり、あゅう……んちゅう、んんう……。 パリ
パリパリパリパリ……さふう、んんう、ちゅう……
…… パリパリパリパリパリ……れろり、は、
んう……あゅう、れろり……」

結愛

「パリパリパリパリパリ……んんう、れろり、
ちゅう、あゅう……。 パリパリパリパリ……
…… れろり、あゅう、れろり……」

結愛

「じやあ、反対側のお耳もお……」

結愛

「ぴちゅくちゅ、くちゅ……。 パリパリパリパ
リ…… れろれろり、んう、れろり、くちゅ……
…… パリパリパリパリパリ…… んふうん、れ
ろり、んう、あゅう……」

結愛

「パリパリパリパリパリ……れろり、あゅう……ち
ゅう、れろり……。 パリパリパリパリ……
はあ……んう、んう、れろり、れろり……
パリパリパリパリパリ……」

結愛

「パリパリパリパリパリ……れろれろり、あゅう、れ
ろり…… んう、あゅう……。 れろり……。 パ
リパリパリパリパリ……。 パリパリパリパリパリ
……」

結愛

「……ん……。 何ですか、センパイ？ 耳を舐められ
ながらの乳首責めがす」「するさる？ ふふふう。気に
入ったみたいですね。私も嬉しいですよお……。 パリ
パリパリパリパリ……」

結愛

「あんっ。またピクピクってセンパイの身体が跳ねました……ほんと、私を興奮させるのが上手いですよねえ、センパイって……コリ……コリ……コリコリコリ……！」

「…………んあひ、れろひ、れろひ………… ピツピツピ
リーピツピツ………… わあひ、そべひ、そちゅひ…………
れわひ………… ピツピツピツピツピツ………… ピツ…
…」

結愛

ふふ、いきり立った卑猥な棒の尿道口から
ガマン汁が垂れて……物欲しそうにビクビクしてゐ
「」

結愛

「でも……まだ我慢ですよ？ センパイ。今度は小豆
ぐらいに大きく膨れたその乳首をちゅっちゅしてあ
げますからね？」

結愛

「…………ふふつ…………センパイの乳首、グミみたいですつ
」く美味しそう…………いただきまーすつ…………んんつ、
ちゅぶつ、れろつ、ちゅぱつ…………んちゅつ…………れろ
れろつ…………」

結愛

「あはっ。舐めた瞬間、仰け反りましたね、センパイ……。指でコリコリされるのと、舐められるのどっちが気持ちいいですか？」

結愛

「あ、指は指で気持ちいいんですね……でも舐められ
るのも気持ちいいと……ふふ。わかりました。」

結愛

「それじゃあ、舐めてない方の乳首は指でコリコリ
てあげます。ん……れるつ、んちゅつ……
ちゅつ、れろれろつ……んんつ……ちゅぱつ、
ちゅつ……れるつ……」

結愛

「んちゅつ、れるつ……ちゅ……ちゅぱつ……ちゅつ
……ちゅぱつ……ちゅくつ……れるつ、ちゅつ……
んちゅつ、ちゅつ……れるれるつ、ちゅつ……んつ
……ちゅつ……」

結愛

「はあ……美味しい……センパイの乳首、すい」「へ美
味しい……はあ……舐めてる私が興奮しちやう
う……ふつ、ちゅくつ、れる、ちゅる……ちゅつ、
ふんむ……」

結愛

「もひと、もひと舐めますう……んえ、ふつ……は
ふ、ん、ちゅつ……んちゅつ……れるつ、んぱつ……
……ちゅつちゅつ、れろれろつ、ちゅぱつ……れ
ろつ、んちゅつ、れるつ……」

結愛

「こつちを舐めて……」こつちを「リリリリココココ
リリリリしますね。あのセンパイが私に弄られて、背
中を抜け反らせて、あんあん鳴いで……、はあ……
夢みたじです」

結愛

「今度は、ちゅつと舐めちゃいます……。どうする
かってじうと、乳輪の周りだけを舐めるんです……
」

「れろつ…………れろ、ぺろお…………れろ、れろお…………

「れろつ」

「ふふふっ…………そつですよ…………反対側の乳首も触つてあげません。指で乳輪をなぞるだけです…………触れそうで触れない感じ…………どうですか？」

「ちゅぱー、ちゅぱー……んちゅー、ちゅー、れろー¹
ちゅぱー、ちゅぱー……んちゅー、ちゅー、じゅ
ぶー、れろー、ちゅー、ぶちゅ、んー……ちゅー²
……へー、ちゅぱー……」

「れろつ…………れろ、ぺろお…………れろ、れろお…………」

「ふふふう……ビクビクつですり」「ぐ震えでますね。
……」の焦らしに焦らした乳首を思いつきり吸つたら
ら、センパイはどういう風によがつてくれるんで
しょうか?」

「はああ、それじゃあ……吸いつかやうめすよな……」

結愛

「ちゅぱっ！……反対側の乳首もお……コリコリコリ、コリコリコリ、ちゅぱりぱりぱりぱりぱりぱりぱりぱりぱり！」

「…………はあ、はあ、はあああああああ…………セ
ンパイが反応するたびに…………私もたまらなく興奮し
てます…………」

「後輩に乳首責められて感じてるセンパイよりも、セ

「後輩に乳首責められて感じてるセンパイよりも、センパイの乳首を舐めて興奮してる私の方がヘンタイかもしれないですね……ふふふつ……」

「頑張つて耐えてる先輩への「」優美つてわけじゃないですけど、このぶつぐり膨らんでいる亀頭を……きゅう！」

「あはは。あうう、うでせんパイ……すう」「くかわいい！ ほら、尿道口からガマン汁がたあ～っぶり垂れでますよ。ぬちやぬちや……って」

「よつぽど気持ちよかつたんですね。それじゃあ、次
は……乳首と亀頭を同時に刺激してあげますから
ね？　じゃあ……」

「シロ……シロ……シロ……シロお……あああ……セ
ンパイのシロ、本当にかたあじつ……手で触ると脈
打つてゐるのがわかりますね。ふふっ」「……」

結愛

「乳首も併せて……」「ココ……シココ……」「ココ……シココ……」「ふふ。もぶかしいですか？」「うん？ もうと速くしてほしく……じゃあ……」

結愛

「ペースをあげますよ～……」「う～……」「う～……」「う～！ やンペイ氣持ちいいんでしょ？」「あ～、あ～、あ～で……罪であります。」

結愛

「……龜頭も破裂しそうなへり、黝りこそ、ピクピクって震えていますね～……」「もうイキそうですか？」

結愛

「いじりますよ～……」「う～でもイシトドケ～……」「ほ～、センペイ～。あ～、あ～、あ～……」「もう」と喘ぎ声、囁かせて……」「あ～、あ～、あ～……」「あ～、あ～、あ～……」「あ～、あ～……」「あ～、あ～……」「あ～、あ～……」

結愛

「もうひと感じつい、こいつぱい語りで……」「あ～、あ～、あ～……」「あ～、あ～……」

結愛

「……腰を跳ね上げて……イキます～。イキますかセンペイ～。ココココココ、シコシコシコ、ココココリココ、シコシコシコ……」

結愛

「あ～、出た～！ 精液、びゅ～びゅ～、こいつぱいぱいますから……」「あ～、出ましたあ～！ でも、まだ手を止めちゃダメですよね……！？ 射精が落ち着くまでシコシコしてあげますから……」

結愛	「ひやつ、あつ…… 憎い！ またびゅつて出た ああつ！ ああああああ…… 射精つて、す ごおじつ……！ んんんつ、ああああああ……」
結愛	「はああああああ…… じつぱい出ましたねえ…… 私の手がセンパイの精液でべちょべちょですよ…… ふふふつ……」
結愛	「んちゅ…… れろつ、ちゅつ…… は、精液…… 美味 しい…… 龜頭もカリ首も精液だらけですから…… 綺麗にしてあげますね……」
結愛	「はあむつ…… れろおお、ちゅ、ちゅひつ、ん くつ…… はふ、んくつ、ちゅつ…… ちゅ ぱつ……」
結愛	「あ、そっだ。ついでだから、乳首を弄りながらセン パイの口、綺麗にしてあげますね…… ちゅふつ…… くちゅ…… れろれろ…… くちゅ…… んふつ…… れ ろれろ……」
結愛	「はむつ。んつ…… ちゅふつ…… くちゅ…… れろれろ ちゅふくちゅ…… んん…… んぶつ、ん ぐつ…… じゅるつ、じゅぶぶつ…… ん ぶつ、あむつ、じゅりゅつ……」
結愛	「ふあつ…… フエラチオされながら乳首をいじり れてどうですか、センパイ？ 死ぬほど気持ちい い？ ふふつ。もう綺麗になっちゃいましたけど …… もうちゅうとします？」

結愛

「あははっ。やつぱり必死で頷くんですね。かーわ
いー……。じゃあ、もう少しだけ……んちゅっ……
れろっ、ちゅっ……！ くちゅちゅむっ……んん
っくちゅ……んふっ……じゅぱっ……！」

結愛

「じゅりゅり……んふっ……ちゅぱっ……れろれろ
……んふっ……乳首をきゅって摘まむたびに、私
のお口の中で、ピペピペって跳ねてますよ……は
あむっ……！」

結愛

「れろ、ちゅぱっ、くちゅ、じゅぶ…… ジゅぶ
ぶっ、れろ、くちゅ、ちゅぱっ、ちゅぱ、んふっ
ん、ふぶぶっ…… ジュブブブブブ！」

結愛

「最後に、思いっきり吸ってあげます……んんっ
れろれろ……くちゅ……！ んふっ……ちゅむっ
……くちゅ……！ りゅうりゅうりゅうりゅうりゅう
うううっ……！」

結愛

「ちゅぱっ……はあ……もしかして、センパイ……今
の乳首責めフェラチオでイキそうでしたか？ で
も、まだ入れてない穴がありますよね……？」

★トライック05. センパイと中出しセックスしちゃいます。

結愛
「そうですよ。私の……ヒツチな穴、です。入れたく
ありませんか……？ 私もセンパイの硬くてあ
つうい「レ……私のナ力で感じてみたいな……」

結愛

「いいですか、入れても……? ふふふ。わかりました。じゃあ、私とセックス……しましょうね。センパイは寝てて下さい。私が上になりますから……」

結愛

「あっ、エッチなお汁が垂れて亀頭にかかるちゃいましたね。とっくにずぶ濡れですから準備オッケーなんです。ですから、先つちょをここに……」

結愛

「あっ、凄い……亀頭のとこ、すっごく熱い……え、ナ力も熱いですか? ふふふ。私もセンパイも興奮しまくってるからですよ、きつと……」

結愛

「だから、いっぱい気持ち良くなりましょうね、センパイ……」

結愛
結愛

「……はっ、あっ! んんつ、入るつ……すっごいっ……! ああ、こんなおつきいのが、私のナ力にいい…… んんんんんつ……！」

結愛

「はっ! ああああ……全部、入りました、よお……んんつ……! 何ですか、センパイ? じつとしるだけでも気持ちいい? 私も気持ちいいですよ……」

「でも、動いたら、もつと気持ちいいと思つんですね。だから……んつ、あつ……」

結愛

「こんな感じで、ゆつくり動いて、あああつ
いいつ、私、とっても気持ちいいですつ……
ンパイも感じてくれるんですね……」
セ

結愛

「それくらいわかりますよつ、私のナカで、ピクピ
クって動いてますから…… んんつ……
はつ、あつ、んんつ……」

結愛

「じゃあ、乳首を舐めなぐり腰を動せると思つん
はあんつ……ふふふつ……意地悪な質問をしちゃい
ました……舐めずにすむわけないですもんね……
……」

結愛

「騎乗位なり、乳首を舐めながら腰を動せると思つん
です……」「つやつて…… れろつ……ちゅ
ふつ、くちゅ……んんつ……れろれろ…… んふ
ふつ、できました、乳首舐め騎乗位……」

結愛

「このまま続けますねえ…… んふつ……ちゅむつ
……くちゅ……れろれろ……ちゅふつくちゅ……
……ちゅふつ……くちゅ……れろれろ……
ちゅ……んふつ……れろれろ……」

結愛

「はあんつ……乳首、舐めると、センパイの腰がび
くつて動いて、亀頭の先が一番奥に刺さりますつ……
……私の子宮に当たつてますよおつ…… だか
ら、もつと……んちゅう、れろ、ちゅつ……」

結愛

「ふああつ……！ はあ、はあつ…… 反対側の乳首
もキュ～っと摘まんで「コリコリしてあげますから
ね……！ ちゅぶつくちゅ、くちゅ……れろれろ……
んはつ……れろれろ……！」

結愛

「もつと激しく腰を振りながら……あああつ……
んつ……！ はつ……！ れろれろ……んんつ……
れろれろ……！ ちゅむつ……ちゅぶつくちゅ……
……あつ……あふつ、んふうんつ……！」

結愛

「くちゅちゅぶつ……んふ……れろれろ……！ ちゅ
ぶつ……れろれろ……ちゅぶつ…… あああつ、
これ、す「おいつ……！ ああああ……！」

結愛

「乳首いいじつてると、亀頭が私のナカでぶくぶくてんぢ
みますね……！ まだおつきくなるなんて凄いです
ねえ……！ センパイはかわいいのに、下半身のコ
レはかつ！」——んつ……！」

結愛

「んんつ……！ 騎乗位だと、乳首をとつとも舐めや
すいですかから、もつと、もつと舐めますね……
んちゅう、れろ、ちゅつ……！ はあ……！」

結愛

「あんつ！ また、ナカでピクピク動いてますつ……
なんだか乳首がスイッチみたいですね……！ あ
ああつ……！ れろつ、ちゅぶつ、ちゅうつ、ちゅうつ、
ううつ……！」

結愛

「ちゅぱりー んり、あつ、ああああ………… ん
んり、気持ちいいじつ、ああ………… センパイ、私
たちって相性。」シタリですよお…………」

結愛

「センパイに告白して良かつたあ………… センパイ、
好きつ、私、センパイの」と、大好きじつー！ ちゅ
ぶつ…………くちゅ…………れるれる…………ちゅぶつくちゅ……
……あああつ、ホントす」「おいつー！」

結愛

「くちゅちゅぱり、くら………… れるれる、ちゅ
ぶつ、れるれる………… ちゅぱり、んぶうん、ちゅ
むり………… ちゅわわわわー 乳首もはち切れそつ
なくらい勃起してますね…………」

結愛

「れるれる…………ちゅぱり、れるれる………… くちゅ、
れるれる………… ちゅむり、くちゅ………… ちゅ
ぶつくちゅ………… じゅりゅー ちゅわわわわー
……」

結愛

「ふあつー センパイの乳首、美味しいじつー 騎乗位
しながら乳首吸うの、すう！」ぐいい………… ちゅ
ぶつ…………くちゅ、ちゅぱり、れるれる…………
んふうん、ちゅむつ…………」

結愛

「ちゅわわわわわわわわわわわわわわ………… ちゅ
ぱつー はあ、はあつ、ああああつー もうと詰め
ますよおつ…………くちゅちゅぱり、れるれる…………
……はあああん、んんり…………」

結愛

ちゅぶつ、くちゅ、れろれろ…… ちゅぶつ、く
ちゅ、んんぶ…… あ、あ、は、は、はあ
ああっ! 「

結愛

「美味しいっ……！ 私のエツチな穴でセンパイのコレを、ぱっくり咥え込んで、シロシロしながら乳首舐めるの、ほんと美味しいですっ…… れろれろ、ちゅぶつくなちゅ……！」

結愛

結愛

「ふあーーー センパイ、私、も、もうイキそつで
すっ！ んんっ、センパイもですかーーー やつ
たつ、嬉しいつ、一緒にイキましょうつ！ 最後に
乳首、いっぱい舐めて、いっぱいいじつてあげます
ね！」

結愛

「べる、かか、かかばい、かかひ、れひ、
かかひ、れひれひ……、れひ、んちかひ、れ
ひれひ、んひ、はひ、んちか、れひ……、
んかかひ、かかひ、かかひ、かかひ、
……」

結愛

結愛

「んんっ！ もう何回出したか、わからないくらいなのに、いっぱい精液、出でますううう、ああああ……！ あんっ！ 一番奥につ、精液が当たつてますうう、あああつ……！」

「んちゅう、れる、ちゅう……はんつ！ 乳首、
舐めたらまた出たあああ……ちゅぱくちゅ、ん
ん……んふひ、ちゅむひ……くちゅ……れ
ろれろ……ちゅぱく……」

「ひやんつ！ センパイが仰け反って、私が浮い
ちゃつたあああつ！ あああつ！ 私がイッてるど
きに、奥を突き上げるなんてええつ！ もう凄いん
ですからあ……！」

「お礼に乳首、両方、摘まんであげます」
「キュウウウウウウウ~~~~~」

「あああ……やつと射精が止まりましたね……でも、乳首をまた舐めちゃいます……んちゅっ、れろっ、ちゅっ、ちゅうちゅうちゅうちゅー」

結愛

結愛

[...]

結愛

「センパイの反応がかわいすぎで……でも、下半身のコレはカッコよくて立派で……私、センパイにメロメロですよぉ……」

結愛

「私たちつて相性最高ですねえ……はあ……」これからもセンパイをいじめさせて下さいね。もちろん中出しまも……はあ……大好きです、センパイ……んちゅっ……」

卷之三